

朔旦冬至

今年の冬至は十二月二十二日、旧暦では十一月一日になります。冬至は太陽の光がだんだん弱まってきた極限の日で、この日を境に少しづつ光が強くなっていく一陽来復の日であり、農耕のためにも人間生活のためにも大変重要な日です。太陽暦でも、現在の一月一日が冬至から移動したのもいわれ、またクリスマスが冬至のお祝いが変化したものといわれるように重んじられました。特に旧暦では冬至を含む月を十一月とし、これを基準にして月が決まるようになっており、古来暦の起算点として重んじられました。

また毎年十一月一日は御曆奏ごりやくのそうといつて、明年の曆を宮中に奉られることになっていました。そして今年のように冬至の日が旧十一月一日になる年が十九年ごとに訪れ、この日を朔旦冬至といつて宮中ではお祝いが行われる例となっていました。冬至のある十一月は新嘗祭の月でもあり、新嘗祭ともからめて節会とともに叙位や恩赦が行われることもありました。その意味でも重視されたのですが、古代中国で冬至を含む月を正月とした時代があり、この場合朔旦冬至は正月一日となりますので、いわば古代中国の暦による正月の祝いの名残りといえるのかもしれませんが。太陽暦の新年と同様の意味も伺えます。

近江神宮日供神饌講
新版第二十号
平成二十六年十二月十日



「献上された奥嶋のむべ」展

既に終わった企画ですが、十月七日から十一月十六日まで琵琶湖博物館で「献上された奥嶋のムベ」という展示が行われました。

近江八幡市奥嶋の「郁子(むべ)」が、毎年旧十一月一日に宮中



長澤蘆洲『郁子(むべ)図』

に献上されていたことを紹介し、江戸時代の長澤蘆洲の献上むべの絵を中心に、関連する文献や郁子の標本などが展示されました。



御鎮座記念祭のむべの苞

現在、近江神宮の御鎮座記念祭で、大嶋奥津嶋神社の宮司・総代の皆様からお供えしていただいているむべの苞が、この絵に描かれたものと同様同じ形態であることがわかり、この形自体が歴史的な由来のあるものであることができてきました。

むべはアケビ科の常緑のつる植物で、赤紫のこぶし大の実が実り、細かい種が多くて食べにくいのがやや難点ですが、味そのものは甘くて美味です。近年再び宮中に献上されるようになり、今年も十月下旬に献上されたことが滋賀版で新聞報道もされました。

流鏝馬神事の日取り変更

近江神宮の流鏝馬神事は平成二年十一月に御鎮座五十年祭の奉納

行事として初めて開催し、翌々四年からは毎年十一月三日の恒例行事として定着していましたが、実際に奉納する古式弓馬術協会の方々の事情により、明二十七年から六月第一日曜日の開催に変更することになりました。二十七年は六月七日（日）の開催となります。時の記念日の前の日曜日ということになり、時の記念日の祝賀行事として行います。時間は従来どおり十二時三十分社務所より本殿に参進、本殿での鏑矢奉献の儀、表参道での天長地久の式に続いて騎射が行われます。

なお、流鏑馬神事に先立つて行われている流鏑馬教養講座も、流鏑馬当日の六月第一日曜日の午前中に開催する予定です。

六月ということで、雨が懸念されるかと思いますが、梅雨入り前の六月の初めは意外と雨の日は少ないようです。

羊と羊羹の話

明年は未年。羊という動物はもともと日本には生息せず、あまりなじみがありませんでした。古代オリエントでは羊を神への捧げ物として神聖視され、中国でも靈獣と考えられてきました。日本では古く推古天皇の時代に百濟から羊がラクダやロバなどとともに献じられたと日本書紀に書かれています。平安時代にも中国や新羅から羊がもたらされたと記録が見えますが、日本の高温多雨の気候が羊の飼育に適していないことから、継続的に飼育されることはなく、一般には知られることがありませんでした。しかし文学や絵画には登場し、中国や仏典などから生まれた羊にまつわることは源氏物



語その他の古典にも使われています。「ひつじ」の語源は不明で、納得できる説はありません。在来の動物ではないにもかかわらず、やまとことばのような語感なのが不思議なところでは。

羊羹は羊の羹（あつもの）と書きますが、元来は羊の肉を入れた熱いスープを差したことばで、中国で古くから食べられていたようです。精進料理として羊肉の代りに小豆を用いたものが中世の日本に伝えられ、冷めて煮こごりのように固まったものが現在の羊羹の原型になったとも、また羊の肝に似せた小豆と砂糖で作る蒸し餅のような「羊肝餅」という菓子があり、これが日本に伝来したときに混同されて羊羹といわれるようになったともいわれます。

年末年始の祭典等

- 十二月十三日午前九時 門松立て
- 十二月二十日午前九時 煤払祭
- 十二月二十三日午前十時 天長節祭
- 十二月三十一日午後三時 年越大祓式（続いて）除夜祭
- 一月一日午前〇時 歳旦祭（さいたんさい）
- 一月一日午前七時二分 初日の出遙拝式
- 一月二日午前八時三十分 日供始祭（につくはじめさい）
- 一月三日午前八時三十分 元始祭（げんしさい）
- 一月七日午前九時 昭和天皇祭遙拝式
- 一月十日午前八時三十分 天智天皇祭（天智天皇のご命日）
- 一月十日午前十時 かるた名人位クイーン位決定戦
- 一月十一日午前九時 かるた祭・高松宮記念杯全国歌かるた大会
- 一月十五日午前十時 古神札焼納祭
- 二月三日午前十時 節分祭
- 二月十一日午前十時 紀元節祭

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。